

# こども新聞 週刊がほピョンプレス

河北新報社 TEL.022-211-1111(月曜から金曜)



## みんな 子ども だった!?

36

きょうのテーマ

名取市の一般社団法人プレーワーカーズは、子どもが自由に遊べる場所づくりに取り組んでいきます。遊びを追求する大人は、どんな子ども時代を過ごしていたのかな。事務局長の広川和紀さん(36)に話を聞きました。

◇ 東京都中野区で生まれました。校庭や公園で鉄棒や鬼ごっこ、かくれんぼをしたり、友だちの家でゲームをしたり。普通の小学生でした。1人のときは道を探検

みんな思い出

みんな動こう

みんな知りたい

みんな守ろう

みんなトモダチ

# 知らない道探検ワクワク

していました。知らない道がどこに通じているか突き止めると、うれしかったです。小6のとき、自転車で東京都と埼玉県の

境の荒川まで行ったことも。ちょっととした冒険域に月1回、行事を開催する少年団がありま

は、このころでしょう。に何が出来るか」を考える習慣が身に付いたのは、このころでしょう。

子どもやスポーツと関わりなかったのが、大学は生涯スポーツを学ぶ学科へ。子どもが自由に遊べるプレーパークという存在を知り、自分の目指していたものは「これだ」と思いました。

子どもが自由にやって来て、好きに遊べるのが理想。そこで一緒に遊んだり、遊び方の手本を見せたりしたいです。



ひろかわ・かずき 1986年、東京都生まれ。2009年、東洋大ライフデザイン学部卒。子ども向け教材製造販売会社勤務(きんむ)などを経(へ)て、15年に一般社団法人プレーワーカーズ理事。

した。高校生や大学生が運動会やクリスマス会を企画し、小学生が参加していました。夏にはキャンプもあり、自然の中で遊ぶのが好きになったのは少年団の影響かもしれません。



中学ではサッカーに打ち込みました。部活動に加え、土日は地域のクラブでボールを追いました。高校でもサッカー部に入りましたが「とにかく走れ」という指導が合わず、1年でやめました。退部して、少年団の活動を手伝うように。自分がやってもらったように、小学生のためにイベントやキャンプを企画しました。「子どものために何が出来るか」を考える習慣が身に付いたのは、このころでしょう。

子ども向けの教材や遊具を製造・販売する会社に入り、仙台市にやってきました。転機は東日本大震災です。ボランティアとしてワゴン車に遊具を積んで被災地を訪れ、子どもとの触れ合いを重ねるうちに、仕事にしようと考えました。

### 今週の注目ニュース

◇8日(土) 忠犬ハチ公の日  
東京・JR渋谷駅前、亡き主人上野英三郎さんの帰りを待ち続けた秋田犬ハチをしのぼうと制定されたよ。毎年、ハチの生まれ故郷、大館市などで慰霊祭が行われます。

きょうの紙面

- 2面 サイエンス
- 3面 3分チャレンジ
- 4・5面 わが校わがまち スクール通信
- 6面 聞いて学べる こども英語
- 7面 投稿特集

広川和紀さん(36歳) 一般社団法人プレーワーカーズ事務局長